

大学生の社会貢献・地域連携に対する意識

羅 明振* 荒木 勝** 栗原 考次***

A Survey Study of University Students' Awareness on Social Contribution and Regional Cooperation

Myungjin NA^{*}, Masaru ARAKI^{**} and Koji KURIHARA^{***}

Recently, competition among universities has a whole new face, and emphasis is given toward interdependence and interactive evolution between universities and regions. From this social perspective, universities should contribute to regional development by serving the regional society using results of intellectual work, and it is necessary for universities to accomplish social contribution and regional cooperation strategically. One of the most important parts in strategic planning is that students participate in activities for social contribution and regional cooperation. This paper presents a survey of the university students' awareness on social contribution and regional cooperation using several statistical methods and attempts to find factors which affect activities for social contribution and regional cooperation using logistic regression analysis.

Key words: University students' awareness, social contribution and regional cooperation, volunteer activities, exploratory factor analysis, logistic regression analysis

1 はじめに

平成 18 年 12 月 22 日に改正された教育基本法の第七条では、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」ことを大学の役割として規定している。これは、大学の社会貢献が大学の果たすべき使命であることを示す。近来、大学間競争、地域間競争が新しい時代に入り、大学と地域の相互依存、相互発展の時代が到来したという時代認識を基に、大学は戦略的に地域連携を遂行する必要がある。大学は地域にとって知的、人的資源であり、地域に貢献する人材を育成、供給することにより、地域の発展に寄与すべきである。また、一方通行的な供与だけでなく、地域連携を通じて、地域は必要な知識や人材を提供してもらい、大学は教育・研究の一環としてとらえるなど、双方がウィン・ウィンの関係にならなければならない。教育・研究の一環としての活動には、学生が社会貢献・地域連携活動に参加することが重要になってくる。学生はその活動を通じて、地域・社会との関わりの中から多くを学び、地域・社会の役に立ち喜んでもらえることに大きな満足感を感じることにより、学生自身の成長が期待できる。また、それが地

域に貢献する人材を育成、供給につながることは間違いない。本研究では、大学の社会貢献・地域連携において、大学生の社会貢献・地域連携活動参加の重要性に着目し、それに対する大学生の意識を把握することを目的としている。

2 調査について

本研究では、大学生の社会貢献・地域連携に対する意識を調査するために、平成 22 年 12 月、岡山大学在学中の学生を対象として実施したアンケート調査を基に解析を行った。

岡山大学では、社会的使命として教育・研究を通じた社会貢献・地域連携を進めているところで、そのさらなる充実を目指し、平成 22 年 7 月に岡山大学戦略的社会連携・地域貢献検討ワーキンググループ（以下、「WG」とする。）を設置し、今後推進すべきことについて具体的に検討を進めている。その検討の中、WG では学生について、地域との関わり、ボランティア意識、岡山市と関連した都市イメージを把握するために、「社会連携・地域貢献に関するアンケート」と題したアンケート調査を行った。調査方法については、1,000 サンプルを目標として学生の構成比を基に学部、入学年度ごとにサンプル数を割り出し、可能な限り現実を反映するように授業を選択して調査を行った。対象となった学生は登録数で 1,195 人、回答数は 808 人であり、回答率は 67.62%であった。その内で調査項目に対して 1 箇所でも欠損のあるデータは 81 個であった。観測データと欠損データ

* 岡山大学大学院社会文化科学研究科

** 岡山大学理事・副学長

*** 岡山大学大学院環境学研究所

とが同じ傾向をもたないと結論に偏りを生じるため、欠損があるデータを分析から取り除く場合は個々の分析結果が完全データのみで行った場合と変わらないことを確認しておく必要があるが、本研究では、全項目においての構成比が大きく変わらないことを確認し、欠損があるデータを取り除き、残りの 727 個のデータを完全データと見なして分析を行った。分析対象の性別構成は男性が 64.65%、女性が 35.35%であり、表—1 に示すように入学年度では平成 20 年度入学者が全体の 50.76%を占める結果となった。

表—1 入学年度と所属の構成

	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度 以前	合計
文学部	17	4	17	19	57
教育学部	10	6	37	3	56
法学部	15	20	26	16	77
経済学部	12	16	19	8	55
理学部	8	9	26	3	46
医学部	17	1	96	10	124
歯学部	6	33	1	0	40
薬学部	5	0	17	6	28
工学部	61	10	82	13	166
環境理工	7	7	20	3	37
農学部	10	3	28	0	41
合計	168	109	369	81	727

3 地域に対する意識及び実態

学生たちは、地域とはどのように関わってくるか、また地域についてどのような意識を持っているかを調べた。

まず、5 点尺度（全くそう思わない、あまりそう思わない、どちらともいえない、ややそう思う、全くそう思う）で評価された「商業地域に出向く理由」、「商業地域に出向かない理由」、「大学キャンパス周辺地域の印象」、「住むという観点からの岡山県内における環境」の 4 つの内容それぞれに対して主因子法・Promax 回転による因子分析を行い、共通因子を見つけた。表—2～表—5 はそれぞれ Promax 回転後の因子パターンを示している。

「商業地域に出向く理由」については、固有値の変化は 2.917, 1.191, 0.891, 0.789, … というものであり、2 因子構造が妥当であると考えられた。なお、回転前の 2 因子で 8 項目の全分散を説明する割合は 51.36%であった。表—2 のように第 1 因子は 4 項目で構成されており、「イベントに参加、見物」、「美術館、歴史文化施設など」など、特別な用事を表す内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで第 1 因子を「特別な用事」と命名した。第 2 因子も 4 項目で構成されており、「飲食」、「友人などと会う」など、日常的な用事を表す内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで第 2 因子を「日常的な用事」と命名した。

表—2 「商業地域に出向く理由」の因子分析結果

項目内容	I	II
イベントに参加、見物	.863	-.019
美術館、歴史文化施設など	.644	.000
アミューズメント施設	.523	.055
アルバイトなどの用事	.407	-.019
飲食	-.049	.657
友人などと会う	.114	.577
百貨店やショップ	-.041	.501
目的はないがぶらりと立ち寄る	.040	.458
因子間相関	I	II
	I	-.597
	II	-

表—3 「商業地域に出向かない理由」の因子分析結果

項目内容	I	II
あまり用事がない	.760	-.127
居住地域周辺で買い物が足りる	.425	.205
バス代や駐車場の料金が低い	-.105	.686
遠くて不便である	.283	.390
通販で足りる	.027	.387
因子間相関	I	II
	I	-.480
	II	-

「商業地域に出向かない理由」については、固有値の変化は 2.174, 1.014, 0.827, 0.774, … というものであり、2 因子構造が妥当であると考えられた。なお、回転前の 2 因子で 5 項目の全分散を説明する割合は 53.14%であった。表—3 のように「あまり用事がない」、「居住地域周辺で買い物が足りる」など、特に出向く必要性を感じていないことを表す内容の項目が高い負荷量を示していたため、第 1 因子を「必要性なし」と命名した。第 2 因子は 3 項目で構成されており、「バス代や駐車場の料金が低い」、「遠くて不便である」など、交通手段や距離的に不満を持つことを表す内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで第 2 因子を「移動の不便性」と命名した。

表—4 「大学キャンパス周辺地域の印象」の因子分析結果

項目内容	I	II
日常の買い物に便利	.862	-.131
お店が多い	.615	.166
大学キャンパス周辺地域は魅力	.517	.091
ご近所との付き合いが多い	-.054	.739
留学生が暮らしやすい	.119	.469
因子間相関	I	II
	I	-.471
	II	-

「大学キャンパス周辺地域の印象」については、最初 6 項目に対して因子分析を行った。固有値の変化は 2.334, 1.030, 0.984, 0.653, …というものであり、2 因子構造が妥当であると考えられた。その結果、「静かである」という項目が十分な因子負荷量を示さなかったため、分析から除外し、再度因子分析を行った。Promax 回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表—4 に示す。なお、回転前の 2 因子で 5 項目の全分散を説明する割合は 66.2%であった。第 1 因子は 3 項目で構成されており、「日常の買い物に便利」、「お店が多い」など、お店が多くて日常の買い物などが便利であると感じることを表す内容の項目が高い負荷量を示していたため、第 1 因子を「お店の充実」と命名した。第 2 因子は 2 項目で構成されており、「ご近所との付き合いが多い」、「留学生が暮らしやすい」など、地域住民との交流が多くて留学生も暮らしやすいことを表す内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで第 2 因子を「住民との交流が多い」と命名した。また、「大学キャンパスと周辺地域は魅力」の項目は第 1 因子に含まれ、学生たちはお店が充実していると感じることにより大学キャンパス周辺地域は魅力があると思うことがわかる。

表—5 「住むという観点からの岡山県内における環境」の因子分析結果

項目内容	I	II	III
公共施設が充実	.731	-.121	.048
医療を受ける環境が充実	.689	-.206	.226
生活環境が整備	.618	.072	.114
教育を受ける環境が充実	.571	.095	.002
遊べる施設が充実	.404	.339	-.175
交通の便がよい	.386	.302	-.082
おいしい食材が十分流通	.358	.173	.174
都市としての魅力がある	.008	.741	.016
友達、地域住民同士で仲が良い	-.221	.622	.247
岡山県内在住者の人柄が良い	-.060	.575	.173
活気がある	.240	.553	-.071
服などを買うお店が充実	.392	.441	-.131
就職環境に恵まれている	.205	.434	-.078
卒業後も岡山県に住みたい	-.034	.409	.227
自然環境がよい	.065	.123	.678
気候・風土がよい	.115	.040	.664
因子間相関	I	II	III
I	-	.668	.170
II		-	.155
III			-

「住むという観点からの岡山県内における環境」については、固有値の変化は 5.621, 1.599, 1.272, 0.973, 0.962, …というものであり、3 因子構造が妥当であると考えられた。なお、回転前の 3 因子で 16 項目の全分散を説明する割合は 53.07%であっ

た。表—5 のように第 1 因子は 7 項目で構成されており、「公共施設が充実」、「医療を受ける環境が充実」など、施設に関する環境が充実していることを表す内容の項目が高い負荷量を示していたため、第 1 因子を「施設環境が良い」と命名した。第 2 因子は 7 項目で構成されており、「友達、地域住民同士で仲が良い」、「岡山県内在住者の人柄が良い」など、地域や地域住民のイメージが良いことを表す内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで第 2 因子を「地域社会環境が良い」と命名した。また、第 3 因子は 2 項目で構成されており、「自然環境がよい」、「気候・風土がよい」など、自然環境がよいことを表す内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで第 2 因子を「自然環境が良い」と命名した。

以上の因子分析の結果を基に、各因子に相当する項目の平均値を算出し、その値を因子の得点として考えた。

表—6 は「商業地域に出向く理由」、「商業地域に出向かない理由」、そして「大学キャンパス周辺地域の印象」の各因子別の相関係数を示す。相関係数が 0.15 以上の場合を相関関係があると見なして結果をみると、「商業地域に出向く理由が特別な用事」では「商業地域に出向かない理由が移動の不便性」とやや正の相関関係があることを示した。この結果から、商業地域に移動することが不便であるため、特別な用事ない場合には商業地域に出向かないことが考えられる。また、「必要でないと思うため商業地域に出向かない」と「大学キャンパス周辺地域はお店が充実している」との間にもやや正の相関関係があり、大学周辺のお店を利用することにより、特に出向く必要性を感じていないことがわかる。

次に、性別、所属別に差の検討を行うために、各因子の得点について *t* 検定を行った。表—7 にその検定の結果を示す。その結果、性別においては、商業地域に出向く理由で特別な用事 ($t = -2.01, p < .05$) と日常的な用事 ($t = -9.06, p < .01$) の両方とも得点差が有意であり、大学キャンパス周辺地域の印象でお店の充実 ($t = -2.69, p < .05$) が、また住むという観点からの岡山県内における環境で施設環境が良い ($t = -2.62, p < .01$) と地域社会環境が良い ($t = -4.41, p < .01$) がそれぞれ有意な得点差がある結果が得られた。有意差が認められた全ての得点では、男性より女性の方が有意に高い得点を示していた。つまり、女性が男性より、特別な用事または日常的な用事で商業地域に出向いており、大学キャンパス周辺地域でもお店が充実している、そして地域の施設環境及び地域社会環境が良いと思っていることがわかる。所属別においては、商業地域に出向く理由では日常的な用事 ($t = 3.73, p < .01$) が、大学キャンパス周辺地域の印象では地域住民との交流が多い ($t = 2.03, p < .05$) の得点差が有意であり、また住むという観点からの岡山県内における環境では全ての得点で得点差がある結果が得られた。有意差が認められた全ての得点では、理系より文系の方が有意に高い得点を示していた。つまり、文系が理系より、日常的な用事で商業地域に出向いており、大学キャンパス周辺地域は地域住民の交流が多い、そして、地域は住みやすい環境であると思っていることがわかる。

表—6 「商業地域に出向く理由」, 「商業地域に出向かない理由」, 「大学キャンパス周辺地域の印象」の各因子別の相関係数

	商業地域に出向く理由		商業地域に出向かない理由		大学周辺地域の印象	
	特別な用事	日常的な用事	必要性なし	移動の不便性	お店の充実	交流が多い
商業地域に出向く理由	特別な用事	-	.128	.250	.080	.132
	日常的な用事	.419	-.009	.058	.122	.096
商業地域に出向かない理由	必要性なし		-	.346	.151	.055
	移動の不便性			-	-.046	.057
大学周辺地域の印象	お店の充実				-	.332
	交流が多い					-

表—7 各因子の得点に対する性別, 所属別の平均値と標準偏差及びt検定の結果

	男性		女性		検定統計量	文系		理系		検定統計量	
	平均	SD	平均	SD		平均	SD	平均	SD		
	商業地域に出向く理由	特別な用事	2.72	.974	2.88	1.037	-2.01*	2.86	1.018	2.73	.988
	日常的な用事	3.50	.816	4.01	.683	-9.06**	3.84	.826	3.60	.790	3.73**
商業地域に出向かない理由	必要性なし	3.90	.929	3.81	.914	1.35	3.88	.916	3.86	.929	.16
	移動の不便性	2.98	.927	2.93	.898	.69	2.98	.898	2.95	.927	.51
大学周辺地域の印象	お店の充実	3.00	.955	3.20	.969	-2.69**	3.15	.964	3.03	.962	1.60
	交流が多い	2.27	.708	2.33	.723	-1.19	2.37	.664	2.25	.735	2.03*
岡山県内における環境	施設環境	3.20	.632	3.33	.595	-2.62**	3.38	.620	3.18	.611	4.31**
	地域社会環境	2.91	.634	3.13	.644	-4.41**	3.17	.633	2.90	.634	5.42**
	自然環境	4.09	.717	4.18	.721	-1.64	4.23	.683	4.07	.733	2.70**

* p<.05, ** p<.01

表—8 ボランティア活動経験有無に有意な比率差があった項目の観測頻度と期待頻度及びχ²検定結果

		ボランティア活動		p 値
		経験なし	経験あり	
性別	男性	385(362.7)	85(107.3)	<.001
	女性	176(198.3)	81(58.7)	
学年	1, 2年生	238(213.8)	39(63.2)	<.001
	3年生以上	323(347.2)	127(102.8)	
所属	文系	162(189.1)	83(55.9)	<.001
	理系	246(223.8)	44(66.2)	
自宅からの通学	いいえ	414(402.0)	107(119.0)	.019
	はい	147(159.0)	59(47.0)	
町内会の行事	参加したことがない	520(507.8)	138(150.2)	<.001
	参加したことがある	41(53.2)	28(15.8)	
町内会からの協力依頼	応じない	120(107.3)	19(31.7)	.008
	都合がついたときだけなら応じる	323(326.4)	100(96.6)	
	応じる	118(127.3)	47(37.7)	
隣近所の人と挨拶	特に挨拶をすることはしない	192(179.8)	41(53.2)	.015
	たまに挨拶をする	271(272.4)	82(80.6)	
	よく挨拶をする	98(108.8)	43(32.2)	

()は期待頻度

4 社会貢献・地域連携に対する意識

本研究では、ボランティア活動を学生の場合の社会貢献・地域連帯活動と考え、ボランティア活動参加に関する様々な分析結果を基に学生の社会貢献・地域連帯に対する意識調査を行った。

表—8 はボランティア活動経験有無に有意な比率差があった項目のみの χ^2 検定結果を示しており、また表—9 はボランティア活動経験有無に対して本研究で求めた各因子の得点についての t 検定結果を示している。まず、表—8 の χ^2 検定結果では、性別、学年、所属、自宅からの通学、町内会の行事参加経験、町内会からの協力依頼の対応、そして隣近所の挨拶の程度などがボランティア活動経験有無に有意な比率差があることがわかる。性別では女性のほう、学年では3年生以上、所属では文系のほう、また自宅からの通学している、町内会の行事に参加したことがある、町内会からの協力依頼に応じる、そして隣近所の人とよく挨拶をするほうのボランティア活動の経験ありに対する観測頻度と期待頻度の差が大きいため、ボランティア活動参加の割合が高いと言える。

表—9 各因子の得点に対するボランティア活動経験有無の平均値と標準偏差及び t 検定の結果

	経験なし		経験ある		検定 統計量
	平均	SD	平均	SD	
商業地 域に出 向く理 由	2.74	.986	2.90	1.036	1.81
特別な 用事 日常的 な用事	3.64	.797	3.81	.838	2.43**
商業地 域に出 向か ない理 由	3.87	.918	3.86	.946	-.10
必要 なし 移動の 不便性	2.96	.939	2.96	.838	.00
大学周 辺地域 の印象	3.05	.960	3.13	.978	.92
お店の 充実 交流が 多い	2.26	.697	2.38	.762	1.78
岡山県 内に おける 環境	3.23	.620	3.30	.628	1.19
施設 環境 地域社 会環境	2.96	.639	3.08	.663	2.03**
自然 環境	4.12	.718	4.13	.726	-.08

* $p < .05$, ** $p < .01$

表—9 の t 検定結果では、商業地域に出向く理由で「日常的な用事」($t = 2.43$, $p < .01$)、住むという観点からの岡山県内における環境で「地域社会環境が良い」($t = 2.03$, $p < .01$) がボランティア活動経験有無に有意な得点差があることがわかる。両方と

もボランティア活動の「経験なし」よりも「経験あり」のほうが有意に高い得点を示しているため、日常的な用事で商業地域に行けば行くほど、また地域社会環境が良いと思うほどボランティア活動に参加したことがあると言える。

次に、多変量解析の1つの方法であるロジスティック回帰分析を用いて、大学生の社会貢献・地域連携活動参加に影響を与える要因を探した。ロジスティック回帰モデルについて、本研究ではボランティア活動を学生の場合の社会貢献・地域連帯活動として考えているため、ボランティア活動の参加有無を目的変数 (1=参加したことがない、2=参加したことがある) とし、ステップワイズ法 (entry criterion=0.2, stay criterion=0.1) を用いて変数選択を行った。その結果、説明変数として性別、学年、所属、町内会の行事参加経験、隣近所の人と挨拶の5個の変数が有意な変数として選ばれた。表—10 はその結果を示す。また、表—11 はそのモデルに含まれた説明変数の内容を示す。

適合されたロジスティック回帰モデルは

$$\text{logit } p(\mathbf{x}) = -1.518 - 0.541x_1 - 0.997x_2 + 0.810x_3 + 0.856x_4 + 0.280x_5 \quad (1)$$

となる。ここで、 $\mathbf{x} = (x_1, x_2, x_3, x_4, x_5)$ であり、 $p(\mathbf{x})$ は $\mathbf{x} = (x_1, x_2, x_3, x_4, x_5)$ が与えられた状態のもとでボランティア活動に参加したことがある確率を表す。

表—10 最尤法によるパラメータ推定結果

パラメータ	推定値	標準 誤差	Wald χ^2 値	p 値
切片	-1.518	.33	21.13	<.001
性別	-.541	.20	7.40	.007
学年	-.997	.21	22.42	<.001
所属	.810	.20	16.72	<.001
町内会行事参加経験	.856	.29	8.93	.003
隣近所の人と挨拶	.280	.13	4.36	.037

表—11 モデルに含まれた説明変数の内容

変数名	値
性別 (x_1)	1 = 男性 0 = 女性
学年 (x_2)	1 = 1, 2年生 0 = 3年生以上
所属 (x_3)	1 = 文系 0 = 理系
町内会行事 参加経験 (x_4)	1 = 参加したことがある 0 = 参加したことがない
隣近所の人と 挨拶 (x_5)	1 = 特に挨拶をすることは ない 2 = たまに挨拶をする 3 = よく挨拶をする

表—13 にこのモデルの有意性検定結果を示す。この結果を見ると、定数項だけのモデルが正しいという帰無仮説が棄却されるため、モデルに含まれたすべてのパラメータがゼロではないということが言える。

表—13 有意性検定の結果

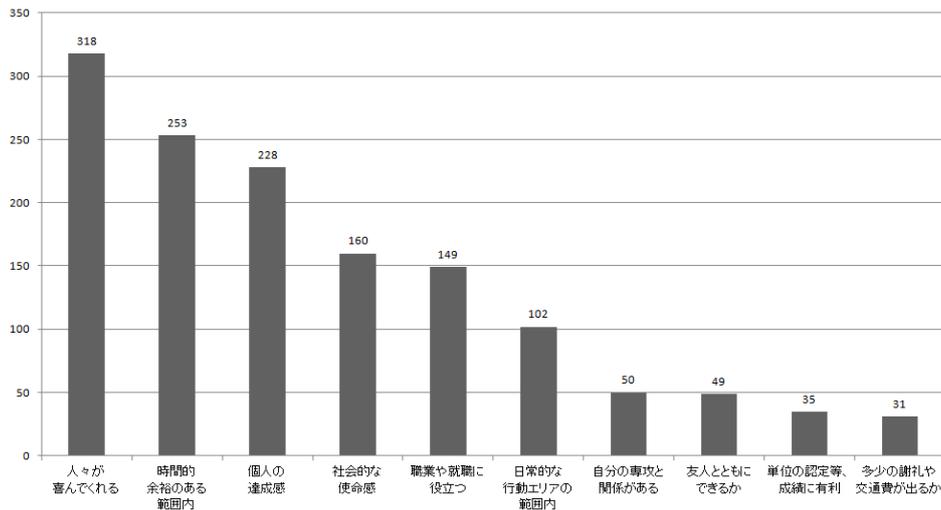
検定	χ^2 値	自由度	p 値
尤度比	72.443	12	<.0001
スコア	72.044	12	<.0001
Wald	63.693	12	<.0001

すなわち、性別、学年、所属、町内会の行事参加経験、隣近所の人と挨拶の程度がボランティア活動参加に影響を与える要因となることがわかる。さらに、表—10 の p 値を見ると、学年と所属が他の変数と比べ最も小さいので、ボランティア活動参加に最も重要な要因となっていることもわかる。これは大学側から全学を通じた社会連携・地域貢献の組織的な推進が必要で

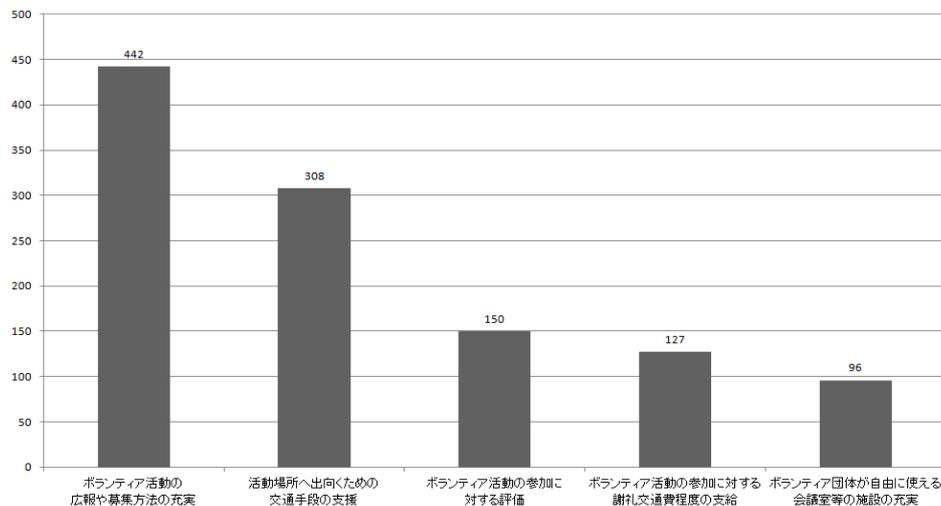
あることを示す結果であると考えられる。

図—1 は「ボランティア活動に参加するとしたら、重視するものは何か」という質問に対する複数選択の結果を示している。その結果、「そのボランティア活動により人々が喜んでくれる活動かどうか」が 43.7% (318 人) で最も多く、「自分の時間的余裕のある範囲でできる活動かどうか」が 34.8% (253 人)、「個人の達成感がある活動かどうか」が 31.4% (228 人) を占めた。また、「単位の認定等、成績に有利な活動かどうか」は 4.8% (35 人)、「多少の謝礼や交通費程度が出る活動かどうか」は 4.26% (31 人) でしかなかった。

図—2 は「ボランティア活動の参加に際し、どのような支援があったら良いと思うか」という質問に対する複数選択の結果を示す。その結果を見ると、過半数の 58.7% (442 人) が「ボランティア活動の広報や募集方法の充実」と答えており、「活動場所へ出向くための交通手段の支援」も 42.2% (308 人) で他の支援要望より圧倒的に多かった。



図—1 ボランティア活動に参加についての重視点



図—2 ボランティア活動に対する支援

5 おわりに

本研究では社会貢献・地域連携活動の一つであるボランティア活動に対する分析を行い、その分析結果に基づいて大学生の社会貢献・地域連携に対する意識を把握した。分析では、ロジスティック回帰分析を用いて社会貢献・地域連携活動参加にどの要因が影響を与えているかを確認した。その結果、性別、学年、所属、町内会の行事参加経験、隣近所の人と挨拶程度が活動参加に影響を与える要因となり、性別では女性のほう、学年では3年生以上、所属では文系のほう、また町内会の行事に参加したことがある、隣近所の人とよく挨拶をするほどボランティア活動に参加することが確認できた。地域に対する意識及び実態調査では、性別と所属別に違いが出ており、男性より女性のほうが、また理系より文系のほうがよく商業地域に出向き、地域社会環境が良いと考えていた。この結果により地域住民との付き合いが多ければ多いほど社会貢献・地域連携活動に意欲的に参加することが考えられる。しかし、町内会の行事参加経験や隣近所の人と挨拶程度の場合は、逆にボランティア活動の参加経験が影響を与えているとも考えられるため、因果関係を想定することが難しい。したがって、共分散構造分析などを通じて全体的な意識構造をモデル化し、意識構造を把握する必要がある。大学側は、学生と地域住民とのより多くの交流機

会を提供することにより、学生から積極的に社会貢献・地域連携活動に参加しようとするような戦略が必要であると考えられる。

社会貢献・地域連携活動に対する重視点としては、有償の活動かどうかよりも自分の時間的余裕のある範囲で人々に喜んでもらえることにより満足感が感じられる活動かどうかをより重視していることがわかった。また、社会貢献・地域連携活動に対する支援としては、活動の広報や募集方法の充実、活動場所へ出向くための交通手段の支援などを必要としていることが確認できた。

謝辞：本研究は岡山大学戦略的社会連携・地域貢献検討ワーキンググループから提供されたデータを基に行われた。ここに記して謝意を表す。

参考文献

教育基本法（平成十八年十二月二十二日法律第二十号）

<<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H18/H18HO120.html>>

羅 明振, 荒木 勝, 栗原 考次 (2011) : 学生の社会貢献・地域連携に対する意識, 日本計算機統計学会第 25 回大会講演論文集, pp. 125-126.

付録：「社会連携・地域貢献に関するアンケート」調査に使用された設問紙

1-1. 性別 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 男	2. 女
-------------------------	------	------

1-2. 入学年度 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 平成22年度 4. 平成19年度	2. 平成21年度 5. 平成18年度	3. 平成20年度 6. 平成17年度以前
------------------------------	------------------------	------------------------	--------------------------

1-3. 所属学部・研究科 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 文学部 4. 経済学部 7. 歯学部 10. 環境理工学部 13. 教育学研究科(修士課程) 14. 教育学研究科(専門職学位課程) 15. 社会文化科学研究科(博士前期課程) 16. 社会文化科学研究科(博士後期課程) 17. 自然科学研究科(博士前期課程) 18. 自然科学研究科(博士後期課程) 19. 自然科学研究科(博士課程(5年一貫制)) 20. 保健学研究科(博士前期課程) 21. 保健学研究科(博士後期課程) 22. 環境学研究科(博士前期課程) 23. 環境学研究科(博士後期課程) 24. 医歯薬学総合研究科(博士前期課程) 25. 医歯薬学総合研究科(博士後期課程) 26. 医歯薬学総合研究科(修士課程) 27. 医歯薬学総合研究科(博士課程) 28. 法務研究科	2. 教育学部 5. 理学部 8. 薬学部 11. 農学部	3. 法学部 6. 医学部 9. 工学部 12. MPコース
----------------------------------	---	--	---

1-4. 所属サークル・部 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 文化系サークル・部 4. サークル・部には所属していない	2. 体育会系サークル・部	3. 学外サークル等
----------------------------------	------------------------------------	---------------	------------

1-5. 出身地 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 岡山市 4. 中国地方 7. 上記以外の地方(日本国内)	2. 倉敷市 5. 四国地方	3. 岡山市、倉敷市以外の県内 6. 近畿地方 8. 外国
--------------------------	---------------------------------------	-------------------	-------------------------------------

1-6. 現在居住している地域について (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 岡山市(大学周辺除く) 4. その他の地域	2. 大学周辺	3. 倉敷市
--	-----------------------------	---------	--------

1-7. 自宅(親元)からの通学である。 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. はい	2. いいえ
---	-------	--------

1-8. 現在の住所にどれくらい住んでいますか? (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 1年未満 4. 3年～4年未満 7. 10年以上	2. 1年～2年未満 5. 4年～5年未満	3. 2年～3年未満 6. 5年～10年未満
---	-----------------------------------	--------------------------	---------------------------

I-9. 通学の主な交通手段について、利用しているものを三つまで○で囲んで下さい。	1. 徒歩	2. 自転車	3. バス
	4. 電車	5. 自動車	6. バイク・スクーター

I-10. アルバイトの頻度 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. ほぼ毎日	2. 週4～5日程度	3. 週2～3日程度
	4. 週1日程度	5. 月に1～2回程度	6. 行っていない

I-11. 奨学金の給付、貸与 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 日本学生支援機構の奨学金の貸与を受けている
	2. 地方自治体奨学金の給付、貸与を受けている
	3. その他奨学金の給付、貸与を受けている
	4. 奨学金の給付、貸与を受けていない

II-1. 次の商業地域に行く頻度を教えてください(通学途中の単なる通過は含みません)。 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 岡山駅周辺(駅前商店街, 岡山一番街, 高島屋周辺, 西口周辺)	1	2	3	4	5	6
	2. 表町周辺(天満屋, 表町商店街など)	1	2	3	4	5	6
【選択肢】	3. 奉還町周辺(奉還町商店街周辺)	1	2	3	4	5	6
	4. 倉敷駅南周辺(倉敷駅南, センター街, えびす商店街周辺)	1	2	3	4	5	6
1. ほぼ毎日	5. 倉敷駅北周辺(宮前・川入地区, イオン倉敷周辺)	1	2	3	4	5	6
	2. 週2～3回						
3. 週1回程度							
4. 月に2～3回程度							
5. 年数回程度							
6. ほとんど行かない							

II-2. 商業地域へ出向く理由としてふさわしいものは なんですか。右に示す項目で、あなたが考える 程度について、得点欄から最も当てはまる番号 に一つ○をつけてください。	① アルバイトなどの用事	5	4	3	2	1
	② アミューズメント施設	5	4	3	2	1
【得点】	③ 百貨店やショップ	5	4	3	2	1
	④ イベントに参加、見物	5	4	3	2	1
5. 全くそう思う	⑤ 飲食	5	4	3	2	1
	⑥ 美術館、歴史文化施設など	5	4	3	2	1
4. ややそう思う	⑦ 友人などと会う	5	4	3	2	1
3. どちらともいえない	⑧ 目的はないがぶらりと立ち寄る	5	4	3	2	1
2. あまりそう思わない	⑨ その他(具体的に教えてください)					
1. 全くそう思わない	(具体的に)					

II - 3. 商業地域へあまり出向かない理由としてふさわしいものはなんですか。II - 1.で回答した商業地域と比較して、右に示す項目で、あなたが考える程度について、得点欄から最も当てはまる番号に一つ〇をつけてください。

【得点】

- 5. 全くそう思う
- 4. ややそう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. あまりそう思わない
- 1. 全くそう思わない

① あまり用事がない	5 - 4 - 3 - 2 - 1
② 遠くて不便である	5 - 4 - 3 - 2 - 1
③ 魅力的な店舗が少ない	5 - 4 - 3 - 2 - 1
④ 居住地域周辺で買い物が足りる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑤ バス代や駐車場の料金が低い	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑥ 通販で足りる	5 - 4 - 3 - 2 - 1

⑦ その他(具体的に教えてください)

(具体的に)

II - 4. あなたのお気に入りのスポットをあげてください。(自由記述・複数回答可)

II - 5. 岡山県には多くの観光名所があります。行ったことのある施設をすべて選んでください。

(該当項目を○で囲んで下さい)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 岡山城・後楽園 | 2. 岡山県立美術館 |
| 3. オリエン特美術館 | 4. 林原美術館 |
| 5. 夢二郷土美術館 | 6. 岡山市デジタルミュージアム |
| 7. 半田山植物園 | 8. 最上稲荷 |
| 9. 吉備津神社 | 10. 吉備津彦神社 |
| 11. 足守藩侍屋敷・近水園 | 12. カンコースタジアム |
| 13. 倉敷美観地区 | 14. 大原美術館 |
| 15. 瀬戸大橋 | 16. 鷺羽山 |
| 17. 津山鶴山公園 | 18. 津山衆楽園 |
| 19. 閑谷学校 | 20. 和気神社 |
| 21. 牛窓 | 22. 名刀の里 長船 |
| 23. 八塔寺ふるさと村 | 24. 備中国分寺 |
| 25. 造山古墳・作山古墳等古墳群 | 26. 備中松山城 |
| 27. 吹屋ふるさと村 | 28. 井倉洞 |
| 29. 満奇洞 | 30. 神庭の滝 |
| 31. 恩原高原 | 32. 蒜山高原 |
| 33. 中世夢が原 | 34. カブトガニ博物館 |
| 35. 田中美術館 | 36. 奥津温泉 |
| 37. 湯原温泉 | 38. 湯郷温泉 |
| 39. 上記の内、どこにもいったことがない | |
| 40. 上記以外の名所、歴史遺跡、文化施設 | |

(具体的に)

II-6. 県内で、ぜひ行くように推薦したいところ(II-8の項目以外でも結構です)がありますか？

(該当項目を○で囲んで下さい)

1. ない
2. ある

(あると回答した方:具体的に)

II-7. あなたにとって魅力のある街とはどのような街ですか。三つまで○をつけてください。

1. 都市としてのブランド力や魅力がある
2. 外国人を受け入れやすい環境である
3. 他都道府県出身者を受け入れやすい環境である
4. 自然環境に恵まれている
5. 気候がよい
6. 歴史と文化に恵まれている
7. 治安がよく災害が少ない等安全安心に暮らせる
8. 大都市のような華やかさや洗練されている趣がある
9. コンサートなど、イベントが頻繁に行われている
10. 就職先が沢山ある
11. 物価が安い
12. 買い物に便利
13. 交通の便がよい
14. その他(具体的に教えて下さい)

(具体的に)

II-8. 岡山市、倉敷市についてお答えください。右に示す項目で、あなたが考える程度について、得点欄から最も当てはまる番号に一つ○をつけてください。

岡山市について

① 学生にとって魅力がある街	5 - 4 - 3 - 2 - 1
② 都市としてのブランド力がある街	5 - 4 - 3 - 2 - 1

倉敷市について

③ 学生にとって魅力がある街	5 - 4 - 3 - 2 - 1
④ 都市としてのブランド力がある街	5 - 4 - 3 - 2 - 1

【得点】

5. 全くそう思う
4. ややそう思う
3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない
1. 全くそう思わない

⑤ 岡山市は倉敷市より学生にとって魅力がある	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑥ 岡山市は倉敷市よりブランド力がある	5 - 4 - 3 - 2 - 1

II-9. 大学キャンパス周辺地域についてお答えください。右に示す項目で、あなたが考える程度について、得点欄から最も当てはまる番号に一つ○をつけてください。

【得点】

5. 全くそう思う
4. ややそう思う
3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない
1. 全くそう思わない

① 静かである
② 日常の買い物に便利
③ お店が多い
④ ご近所との付き合いが多い
⑤ 留学生が暮らしやすい
⑥ その他(具体的に教えて下さい)

(具体的に)

5 - 4 - 3 - 2 - 1
5 - 4 - 3 - 2 - 1
5 - 4 - 3 - 2 - 1
5 - 4 - 3 - 2 - 1
5 - 4 - 3 - 2 - 1

II - 10. 大学キャンパスと周辺地域はあなたにとって魅力のある地域ですか。 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 全くそう思う 4. あまりそう思わない	2. ややそう思う 5. 全くそう思わない	3. どちらともいえない
---	---------------------------	--------------------------	--------------

III - 1. あなたは、現在住んでいる地域の町内会に入っていますか。 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 入っている	2. 入っていない	3. わからない
---	----------	-----------	----------

III - 2. 今後、町内会などの自治会に参加する予定はありますか。 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. ある 4. どちらともいえない	2. ない	3. 誘われたら入る
--	-----------------------	-------	------------

III - 3. 大学に入ってから、町内会の行事に参加したことはありますか。 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. よく参加する	2. 参加したことがある	3. 参加したことがない
---	-----------	--------------	--------------

III - 4. 参加したことがある行事名活動名を教えてください。(自由記述:複数回答可)	<div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>
---	--

III - 5. 町内会や近所の人から行事に誘われることがありますか。 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. よくある	2. ときどきある	3. ない
--	---------	-----------	-------

III - 6. 町内会からゴミ出しの当番、夜回り、お祭り、地域清掃の参加等の協力依頼があったら、応じますか。 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. 応じる 4. すでに参加している	2. 応じない	3. 都合がついたときだけなら応じる
--	------------------------	---------	--------------------

III - 7. 隣近所の人と挨拶をかわしていますか。 (該当項目を○で囲んで下さい)	1. よく挨拶をする	2. たまに挨拶をする	3. 特に挨拶をすることはない
--	------------	-------------	-----------------

III - 8. 町内会の組織に対して、あなたはどのようなイメージを持ちますか。二つまで○で囲んでください。
(該当項目を○で囲んで下さい)

1. 地域や行政を支える大事な組織
2. 災害時または緊急時の際に、お互いを支え合う組織
3. 人間的なつき合いができる暖かいアットホームな組織
4. 人間関係がわずらわしい組織
5. 現代的に見ると、古臭いと感じる組織
6. 年配の人が多く若い人の意見は通らない組織
7. その他(具体的に教えて下さい)

(具体的に)

III - 9. あなたは地域の人々(町内会や住まいの周辺において接する人々)に対して、どんな印象をお持ちですか。思いつくことをお書きください。例: 人当たりがいい。もてなしの心がある。他人に冷たい など。(自由記述: 複数回答可)

(具体的に)

III - 10. 大学に入ってから、ボランティア活動に参加したことがありますか。
(該当項目を○で囲んで下さい)

1. 現在参加している
2. 参加したことがある
3. 参加したことがない → III-13 へお進みください。

III - 11. 前の設問で、ボランティア活動に「1. 現在参加している」または「2. 参加したことがある」、とお答えの方におたずねします。これまでに参加したボランティア活動はどんなものですか。該当するすべてのものを選んでください。
(該当項目を○で囲んで下さい)

1. 町内会や商店街活動の支援
2. 災害復興の支援
3. スポーツ指導関係
4. イベント運営関係
5. 環境問題関係
6. 外国人や留学生の支援
7. 高齢者の支援
8. 障害者支援
9. 芸術アート関係
10. 地域の伝統文化関係
11. まちづくりの企画運営関係
12. 農村、山村などでの村おこし
13. 子ども対象のボランティア関係
14. 公民館活動
15. 教育関連ボランティア
16. その他(具体的に教えて下さい)

(具体的に)

III - 12. III - 10. で、ボランティア活動に「1. 現在参加している」または「2. 参加したことがある」、とお答えの方におたずねします。そのボランティア活動は、現在あなたが大学で学び主に専攻している学問分野を活かすことができる(できた)分野ですか。
(該当項目を○で囲んで下さい)

1. はい
2. いいえ

III - 13. 今後参加してみたいボランティア活動はありますか。該当するすべてのものを選んでください。

(該当項目を○で囲んで下さい)

1. 町内会や商店街活動の支援	2. 災害復興の支援
3. スポーツ指導関係	4. イベント運営関係
5. 環境問題関係	6. 外国人や留学生の支援
7. 高齢者の支援	8. 障害者支援
9. 芸術アート関係	10. 地域の伝統文化関係
11. まちづくりの企画運営関係	12. 農村、山村などでの村おこし
13. 子ども対象のボランティア関係	14. 公民館活動
15. 教育関連ボランティア	
16. その他(具体的に教えて下さい)	

(具体的に)

III - 14. ボランティア活動に参加するとしたら、あなたが重視するものは何ですか。二つまで選んでください。

(該当項目を○で囲んで下さい)

1. 社会的な使命感がある活動かどうか
2. 個人の達成感がある活動かどうか
3. そのボランティア活動により人々が喜んでくれる活動かどうか
4. 将来的に自分の職業や就職に役立つ活動かどうか
5. 自分の時間的余裕のある範囲でできる活動かどうか
6. 日常的な行動エリアの範囲内でできる活動かどうか
7. 多少の謝礼や交通費程度が出る活動かどうか
8. 自分の専攻としているものと関係がある活動かどうか
9. 単位の認定等、成績に有利な活動かどうか
10. 友人とともにできるかどうかどうか
11. その他(具体的に教えて下さい)

(具体的に)

III - 15. ボランティア活動の参加に際し、どのような支援、例:大学または行政があったら良いと思いませんか。二つまで選んでください。

(該当項目を○で囲んで下さい)

1. ボランティア活動の広報や募集方法の充実
2. 活動場所へ出向くための交通手段の支援
3. ボランティア団体が自由に使える会議室等の施設の充実
4. ボランティア活動の参加に対する謝礼交通費程度の支給
5. ボランティア活動の参加に対する評価 例:大学や行政の連携による学校成績への反映
6. その他(具体的に教えて下さい)

(具体的に)

IV - 1. 卒業後も岡山県に住みたいですか。あなたの考えをお聞かせください。

(該当項目を○で囲んで下さい)

1. 全くそう思う	2. 少しそう思う	3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない	

IV-2. 「住む」という観点から、岡山県内における環境について、あなたはどのようにお考えですか。右に示す項目で、あなたが考える程度について、得点欄から最も当てはまる番号に一つ○をつけてください。

【得点】

- 5. 全くそう思う
- 4. ややそう思う
- 3. どちらともいえない
- 2. あまりそう思わない
- 1. 全くそう思わない

① 自然環境がよい	5 - 4 - 3 - 2 - 1
② 気候・風土がよい	5 - 4 - 3 - 2 - 1
③ 都市としての魅力がある	5 - 4 - 3 - 2 - 1
④ 友達、地域住民同士で仲が良い	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑤ 岡山県内在住者の人柄が良い	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑥ 就職環境に恵まれている。	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑦ 交通の便がよい	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑧ 活気がある	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑨ 教育を受ける環境が充実している	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑩ 生活環境が整備されている	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑪ 服などを買うお店が充実している	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑫ 遊べる施設が充実している	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑬ おいしい食材が十分流通している	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑭ 医療を受ける環境が充実している	5 - 4 - 3 - 2 - 1
⑮ 公共施設が充実している	5 - 4 - 3 - 2 - 1

⑯ その他(具体的に教えて下さい)

(具体的に)

V その他ご意見等ありましたら、以下の欄に自由にご記入ください。